

第6次総合計画策定に係る【商工業】産業別若者懇談会 会議記録（要旨）

開催日・出席者等

開催日時 令和2年10月15日（木） 19時00分から20時30分まで
場 所 文化センター 3階ホール
出席者 町民15名（別添参加者名簿のとおり）
報道1名（北信ローカル）
竹節町長、観光商工課長、観光商工係長、総務課長、企画係長、企画係長
（株）地域総合計画

協議状況（説明・懇談事項）

- 進行（総務課長）
- 1 開会（総務課長）
- 2 挨拶（町長）
- 3 第6次山ノ内町総合計画について（企画係員）

懇 談

【発言】 懇談会参加者意見

【回答】 役場出席者意見

【意見1】

人口減少対策が喫緊の課題ということで、起業支援も重要なことかと思うが、今ある企業に対する支援についても目を向けていただければ有難いと思う。観光業、志賀高原のホテルや旅館、渋温泉とか、特に夏場の誘客が課題だと感じる。企業に勤める方を多くして人口を増やすと考えると、冬場だけの産業に従事して定住というのは厳しいと思う。冬だけの仕事で山ノ内に移り住んでくださいと言われても、夏場の仕事はどうすればいいのかとなってしまふ。通年で働く環境ができるように、観光地としての夏場の魅力をしっかりとアピールしていただき、雇用を増やしていただいて、それが人口増になるのではないかと思う。農業支援も必要と思うが、人口を増やす面で考えるとサービス業の方が雇用人数は必要になると思うので、力を入れていただきたい。

【回答1】

ご意見の通り、どうしても冬、スキー産業に依存している部分が多かった。現状、期間雇用の一時的なパート・アルバイトさんに頼っている部分があるが、それを通年で平準化

しオールシーズンの営業になれば、正社員の雇用を維持できると思う。おもてなし向上という意味でも良い影響があると考えている。企業の方々も思っていることと考えていますので、町としても支援していきたい。

【意見2】

志賀高原で観光の仕事をしている。この時期は紅葉を見に来るトレッキングの方が多いが、人が集まる遊歩道の説明看板や標識が朽ちているものがある。徐々に改善されていると思うが、気になっている。魅力を伝えるためには看板の整備も必要かと思うが、今後も整備を続ける計画はあるか。

【回答2】

国もインバウンド関係の強化ということで支援を開始している。本町も多言語看板の整備ということで国から補助をいただいております。昨年度は志賀高原にある全山の遊歩道、スキー場内の看板にどんなものがどこにあるか調査を行った。状態や所有者も含め全て調査したので、不要なものは景観上よくないので撤去していくし、今回環境省の事業では多言語看板が必須なので、今までは多言語でなかったものは日本語と英語併記の看板整備に今年から着手していく予定。来年から5か年国の支援をいただける予定なので、順次整備していく。特に人が集中する「池めぐりコース」「自然探勝コース」「サンシャイントレイル」を中心に整備していく予定。

【意見3】

(資料P7) まちづくりの課題の(1)『結婚を希望する男女への「出会いの場」の提供』というのはどういったものなのかという説明と、『安心して子供を産み健全に育てることのできる環境づくりに取り組む必要があります』ということで、今後、具体的にどういったことに取り組んでいくのか聞きたい。

【回答3】

具体的にはこれからということになるが、現状で考えている範囲でお答えさせていただく。結婚を希望する男女への出会いの場の提供では、社会福祉協議会で若い男女をマッチングさせるイベントを開催しているが、最終的に結婚したという実例の数が少なく、これを続けていってもあまり効果がないでしょうということで、今回の3ヶ年の実施計画の中で来年度以降については社会福祉協議会だけでなく、町の健康福祉部門の担当課を含めて、出会いの場を提供するためのイベントがいいのか、あるいは民間企業で行っているマッチングアプリとかを活用していくのがいいのか、できるだけ男女がネット上や実際に会う機会を増やしていく計画を考えている。

『安心して子供を産み健全に育てることのできる環境づくり』については、保育行政についても十分検討していく必要があると思っている。また、子どもを産んで育てていくには、ものすごくお金がかかるということなので、今まで卒業祝い金という事業を実施し

ていたが、生まれてから育てていく時の費用の関係はほとんどなかった。この部分に関しても出産祝い金ということで今回新たな計画をしている。保育料の無償化や給食費の負担ゼロ等他の市町村に先駆けて山ノ内町は行っているが、その辺の広報が足りないという意見もあるので、その都度周知させていただきたいと考えている。現状想定している部分についてはこのあたり。

【意見 3-2】

今後子どもたちが遊べる公園等の増設は考えていないか。

【回答 3-2】

公園の新設は現在考えていない。しかし、あくまで計画の段階だが、社会体育館の取り壊しを進める中で、跡地と隣にある「みろく児童公園」を合わせて一体化した公園の拡張整備を計画している。

【意見 4】

個人的な提案として聞いていただきたいが、自分は車が好きで、トヨタが開催しているGAZOO レーシングチームに協賛している。トヨタのラリーというのは豊田社長が地域おこしのために開催していて、シリーズ戦ははじまってから「全国各地の元気のない地域」といっては語弊があるかもしれないが、そういった所をポイントに開催しており、山ノ内町もラリーには良い環境があるので、誘致してはどうかと思う。トヨタラリーが開催されると、関係者や選手がそれなりの期間滞在するし、宿泊も増えるし、それで地域内の売り上げがあがるというのを聞く。また、ラリーに出る人はお金持ちが多いので、開催地に滞在中で地域が気に入ると物件を購入するという話も聞いた。

そういった大きな団体とか会社のイベントに目を向けて誘致してくるのもいいと思う。もしトヨタラリーに協賛している中で、山ノ内町でできるような話があったら相談に乗ってもらいたいと思うので、一つの案としてお願いしたい。

【回答 4】

貴重なご意見として頂戴する。今後の計画で検討させていただければと思う。

【回答 4-1-2】

ラリーというのは林道を走るのか。

【意見 4-2】

今年が一番近いところでは菅平で開催されている。トヨタも地域を広げてきている。ドライバーもアマチュアなので、楽しんで走る方も多い。地域おこしには面白と思った。

【回答 4-2】

今年初めて志賀高原で BMW のバイクのイベントを開催した。イベント自体はオフロード

を走って、スキー場内を走って、志賀高原にお泊りいただいた。BMWのバイクということで参加者はお金に余裕がある方が多く、ぜひ志賀高原でやってほしいということで地元と調整して実現した経過がある。来年も志賀高原で開催したいとのことで、参加者の感触はよかった。志賀高原の環境がいいということもあり、スキー場にもご協力をいただく中で開催できた。視点としては同じことだと思うので、頭の中に入れておきたいと思う。

【意見5】

山ノ内はいろいろとイベントをやっていると思うが、近隣から若い子が遊びに来てくれたり、以前やっていた花火のような、身内が子どもを連れて田舎に帰ってくるようなイベントがあるといいと思う。

【回答5】

花火は観光連盟でやっていただいている、多くのお客様が見えて非常に有意義なイベントだったと思っている。「山ノ内どんどん」も町民祭ではあるが、そこまで大きなお祭りではないではないという現状。

イベントについては、どこに視点を置くかということになるかと思う。町民のためのイベントなのか、町外から誘客をはかるためのイベントなのかという設定が非常に難しいと感じており、多くのお客さんに来ていただくのであれば、それなりの投資をして誘客をはかって宿泊をしていただきお金を落としてもらおう、ということも必要なのだと思っている。今何をやりますということは思いつかないが、貴重なご意見として考えさせていただく。

【回答5-1-2】

「山ノ内どんどん」は企画係で担当している。今年は残念ながらコロナの関係もあり中止となってしまった。企画係としては、町民が一体となれるようなイベントが少ない中で「山ノ内どんどん」がそういった意向で継続されており、来年以降も引き続き開催に向けて取り組みたいと思っているので、ぜひ皆さんもご参加いただきたい。

【回答5-1-3】

観光のイベント、お客さん呼び込むという部分で、当課の視点としては宿泊に繋がるようなイベントを念頭に置いている。町内にこれだけの宿泊施設があるので、日帰りのイベントというよりは前泊なり後泊なりしていただけるようなイベントができないかなということで企画・実施している。

また、町でしかできないイベント、今年コロナで中止になってしまったが、第1回志賀高原ヒルクライムは、この地形を持っているからこそできるイベントなので、町がもつ自然、地形、気候、食を活かしたイベントをこれからも推進していこうと考えている。

【回答5-1-4】

ご意見の内容がお客さんをお呼ぶということより、親戚の人が集まってこられるようなイベントというようにとれましたので、補足させていただく。自分の昔のことを思い出すと、

地区のお祭りとか、そういったイベントに親戚の人たちが集まっていた記憶がある。そういうコミュニティとか地域のお祭りに対しても企画係で補助金等を実施しているので、町外に出ていった人がまた山ノ内に戻ってきて、いいなと思えるような魅力的な行事など、地域イベントの維持とか強化の部分を協力していきたいと考えている。

【意見6】

昨年移住してきた立場として、行政の方でしかできないと思っていることを述べさせていただく。

一つ目は教育に対して、山ノ内町は小中学校の教育のインフラという意味ではすごく整っていると感じる。自然の中で教育するというのもしてもらっている。プロジェクトベースラーニングという総合学習のところとか ICT 教育だとか、首都圏に対して遅れの無い教育ができるということを、教育委員会等を通してもっと発信することが町としてできると、きっと魅力が湧くと思う。

次に、移住者としては住む場所や医療機関が非常に気になる場所だが、住む場所に関しては不動産の情報と空き家バンクがメインかと思うが、本来あるべき情報が見えていない状態という印象があるので、本来民間がやるべきことかもしれないが、移住者を招くという意味では、ある程度旗を振って情報提供に努めなければならないと感じている。

あと、面白いことをやっている地域には人は集まるので、イベントを開催したりサポートすることは非常にいいことだと思う。ヒルクライムについても関係者との調整が大変だったと思うが、それを切り開いたことは素晴らしいことだと思う。新しいことをしようとすれば、元々ある規制や決まりに引っかかると思うが、町が先頭に立って改革していく姿勢があると周りからの問い合わせが来やすくなって、結果として人が集まってくる流れが生まれると思う。

効率化に向けたテクノロジーの投資は着々と進めた方が良くと思う。オンライン診療や行政手続きのオンライン化、今は人力でやっているけれどもテクノロジーで解決できることに着手していく。例えば、川の水位を見守るとか積雪量を監視することは IoT 技術で出来てしまったりするので、初期投資はかかるが管理する人力が減るので、長い目で見ると人口が減少したとしても同じサービスができるのではないかと。

関係人口という部分では、山ノ内に通って色々お手伝いいただきながら興味を持っていただき、最終的に移住をするという方がいらっしやると思う。関係人口は量より質を追わなくてはいけなくて、来てくれる人たちに良いところだと思ってもらうことが大事なので、その人たちが安心して来られる環境をつくるのがいいのかなと。そのためには2つあって、通う回数が多くなってくると1回の滞在が長くなり中期滞在するための部屋などが必要になったり出費が大変なので、滞在することのハードルを下げるといった制度を考えていくことが1点。それから関係人口で来る方は子ども連れの家族がほとんどなので、家族全員で来ると家族全員が魅力を知って移住できる可能性が高くなる。そこで必要なのは、子供が転校することなく一定の期間だけ町内の学校に通える制度を教育委員会で設置できると、関係人口の方が数多く何回も訪れることができると思う。

手段として、施策をやるときに民間に任せることがあれば全て任せて進めていくことが

ひとつ。次にプロセスをオープンにすること。要は関係者だけでなく、みんなで町をつくらせていることをアピールすること。町からもホームページやFacebookから発信しているが、町民も役場が何を頑張っているのかわかってくると応援したいと思えてくるので、検討していただきたいと思う。

最後に、なるべく多くの町民とコンタクトをとったうえで、そのプロセスをオープンにして進めることができるとよい。例えば、今回のような機会でお話をさせていただいた中で、それが実現されていくプロセスが少しずつ積み上がっていくと、みんながプロジェクトを何とかしてみようという気になっていくものなので、できればプロセスをオープンにして、こういう機会をより多く設けて頂くことをご検討頂ければと思います。

【回答6】

今の5点のご提案に関して、実際に山ノ内町の行政としてやっている部分もあるし、足りない部分もかなりあると感じた。貴重なご意見としてお伺いして、参考にさせていただき、計画に取り込める部分については考えていきたいと思う。

【意見7】

公園についてお聞きしたい。ある程度の室内施設のある併設型の規模の大きい公園を造っていただきたい。以前広報やまのうちか何かで、小学生議会の「ボルダリングの施設を造ってほしい」との質問に「やまびこ広場にありますが」との回答でしたが、見に行ったら、その施設がその子どもが望んだ施設なのか疑問を感じた。今子どもたちが求めているスポーツアクティビティは昔とだいぶ違うと思う。山ノ内は素晴らしい資源がある良いところだと思うが、スキーだけやっていればいいのかというと思うので、そういったことを踏まえて、ある程度の施設が併設した人の集まりやすい環境の公園の整備をいずれ考えていただきたいと思う。

2点目として、「WAKUWAKU やまのうち」が出店したり湯田中駅周辺に飲食店が増えたが、周りの女性たちに話を聞くと駐車場がないと聞く。お昼に友達とごはんを食べに行こうと思っても、駅周辺にある程度の規模の駐車場がないと、中野まで行ってしまうのが現実。駐車場をどこに設置するのか難しいと思うが、駅周辺が整備されてきている中で、必要性を感じる。

人口減少については、このコロナをチャンスと捉えて、例えば町が都市部の大手企業さんと提携して、テレワークの移転先として歓迎できるようなまちづくりをしていくのもありかなと思う。それには行政単位のセールスが重要になってくるのかなと思う。企業がどういったものを求めているかを把握しなくてはいけないと思うが、山ノ内は観光業が盛んな町なので、住んだりシェアオフィスをつくることに関しても金をかけなくても可能な面があるかもしれない。そういったことを踏まえて商談してみてもいいのかなと思う。

【回答7】

複合的な公園の整備については、確かに山ノ内には欠けているかと感じているところ。室内施設がないということで、それを補うものとして、広域的に考えて近隣の市町村でそ

の部分については利用していただくという考え方かなと。やはり大きな箱モノを建てるときには一時的な費用に加え維持管理費が継続的に必要となり、最終的には今の若い人たちやその下の世代へ負担がいつてしまうということになるので、町としても慎重に考えなければいけないと思っている。

湯田中駅周辺のことについては、近年飲食店や日帰り施設がかなり増加してきているという中で、フリーの駐車場がないことも事実。町所有の観光商工会館の建物がかなり老朽化してきているので、いずれ取り壊しになるかと思う。今は構想の段階だが、湯田中駅周辺の周遊には立地的に非常にいい場所なので、駐車場にしていくべきなのか、そういったことについて検討していきたい。

テレワークについて、2年程前に東京の会社と話をさせていただいたが、最終的には本町は選ばれなかったという経緯があります。その理由として、都心からの距離もあったり、交通のことを考えたときに適地とは見込めないということだった。それが本当の理由かはわからないが、その件に懲りずに、引き続き大手企業さんとお話をさせていただきたいなと考えている。テレワークでの企業誘致はこれからもっともっと必要になることだと考えているので、積極的に取り組んでいきたいと考えている。

【意見8】

シンプルに、この町で住んでいたり、仕事をしていたりして、よかったなと思えることが住み続ける中で大きいのかなと思う。例えば今年のコロナのような突発的に大きな問題が起きたときにこそ、行政に頼るシーンが多いかと思う。

商業的な部分では、高齢の方でやっているお店も多いので、地域クーポンの登録の仕方やGOTOキャンペーンの参加方法がわからない方もいると思う。その辺のカバーをお願いしたい。お金とか箱モノをつくるのではなく、サービス面のところも計画に盛り込んでいただいて、緊急時に頼れる町と思えることが住み続ける中で大きいかなと思った。

観光面では、町の宿泊割も実施しているようだが、先ほど見た町のサイトでは「宿泊施設に任せています」の一文しかなく、全然お客さんのことを考えていないなと感じました。観光商工課のサイトなどにリストアップしていただくなど、お客様目線でよく考えてほしいなと思う。

【回答8】

中小企業の皆さん、高齢のご夫婦でやっている商店、旅館さんなどの話は4月くらいからかなり当課にも寄せられており、現在週2回この文化センターで『よろず相談室』というのを開催している。クーポン券や商品券などいろいろなことをやる上で、商工会の皆さんと一緒に考えたり、皆さんが使いやすい、利用しやすいものを心がけてきました。事業者に対する広報やインターネットがわからない方をどうカバーしようかという部分では、まずは役場に来ていただく、よろず相談室へ来ていただく、県の事業については、北信地域振興局に行ってくださいこともあったと思う。それでも不足する部分は職員が足で回ったこともあるし、旅館組合長さんに一軒一軒回っていただいたこともあります。ただ、正直なところ、それでもまだまだ足りない部分もあるとは思っているのですが、そこについては

反省し、今後も色々なことを想定して引き続き努力していきたい。

宿泊割について、「旅館に聞いてください」というのはその通りです。なぜそういう形式になっているかというと、町内には様々な観光エリアがあって、スキーエリアの皆さん、温泉エリアの皆さん、それぞれ入れ込みのピークが違う。今温泉には人がたくさん来ているが、スキーエリアの皆さんはお休みをされている。町で1億円予算をとっている中で、1億円キャンペーンをやってみたかった気持ちはあるが、町内各観光地でターゲットや時期が違うということもあって、それぞれのエリアでお客さんを取りたいときにターゲットを狙ってそれぞれで広報しましょうということでもらせていただいている。ここを予算上限までという形で画一的にやってしまうと、GOTOキャンペーンのように微妙に残念なことになりかねない。それぞれのエリアの皆さんで、使いたい時期に欲しいお客様に向けてという形でとしているので、お客さん目線ではなく、旅館さん目線になってしまっているというのはその通りだと感じているところ。当課としても、町の観光事業者の支援という趣旨を含んでいることをご理解いただきたい。

4 その他（企画係長）

5 閉会（総務課長）

以上